

2018年10月11日(木)

日刊大牟田 2面



土中の水分量測定装置

有明高専と企業が共同設置

木村情報技術(本社、佐賀市)が有明高専へ寄附(付)した講座「人工知能・ビジネス講座」の野口卓朗特命助教(二八)と学生らが、IT企業の「セラク」(本社、東京都)と共同で、畑の土中の水分量などを測定し、遠隔地で確認できる装置を、玉名市のミニトマトを栽培するピニールハウスに設置した。

実証実験はIOT(モノのインターネット)などについて研究する学生と農家との交流や研究に活用するデータを集める。有明高専では、これまで土中の水分や塩分濃度の計測装置について玉名市や宮城県で実証試験に取り組んできた。

野口特命助教は「二十四時間、土のなかの状況を確認できるようになり、農業のいわゆる『見える化』を支援できるようになります。今後は人工知能(AI)を使った共同研究に取り組みます」と話した。

研究に参加している、専攻科二年生の松本祐弥さんも「自分たちが作ったシステムが稼働し、データを取得していることにやりがいを感じました」と語った。